

地方創生推進交付金 事業効果検証シート
(R2年度事業分)

No.	1
-----	---

担当課	農業振興課
-----	-------

交付対象事業名	八女伝統本玉露ブランディング事業				
総合戦略での位置付け	1. 「ひと」と「しごと」をつなぐ	事業費	計画額(円)	28,000,000	
	②生産性の向上		実績額(円)	28,000,000	
事業概要	八女伝統本玉露推進協議会(市、茶生産者、茶商、JA、福岡県等で構成)において販売の戦略づくり、新たな流通経路の開拓及び契約取引、商品開発等を実施するとともにメディアなどの情報発信によるブランド強化を進める。				
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大濠テラス八女茶カフェのオープンに向けた商品開発支援及び商品取引商談 ・大濠テラス八女茶カフェでの公式商品の販売促進として定期の有料八女茶サロンを実施 ・福岡市のマルシェでノンアルコールテイクアウトティーの出店販売 ・著名なインフルエンサーのデビューイベントでのコラボ商品の開発販売 ・GI認証商品の認知度向上及び販促イベント(東京都でシェフやソムリエなどのインフルエンサー対象と主婦層対象の2回) ・八女茶の商取引の機会創出のため著名レストラン、バイヤー関係者の八女招聘 ・公式商品オンラインショップの運用 ・八女伝統本玉露の公式HPとSNSを活用した情報発信 ・各種メディア、マスコミからの情報発信 				
主な成果	福岡においては、2年前から企画が進んできた大濠テラスが9月にオープンし、公式商品の販売促進として定期の有料八女茶サロンを実施するとともにメディアへの取り上げも数多く八女茶の認知向上に貢献した。東京については、インフルエンサーイベント及びシェフ、主婦層を対象とした販促イベントの実施によって、ブランド強化と併せ公式商品の販売促進が図られた。新商品の開発と公式商品の受注販売流通体制を構築し運用を行った。HPやSNSによる情報発信と著名な全国雑誌6社をはじめ各種メディアの露出が増加し八女茶の認知度が更に向上した。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R2年度)	実績値(R2年度)	説明
	開発商品の取引業者数(社)	0	5	3	コンベによる公式商品をレストラン等と卸取引を行った。
	市内へのバイヤー招聘人数(社)	0	2	7	レストラン・カフェ関係者を招聘した。
	八女伝統本玉露の荒茶取引単価(円)	9,327	16,000	12,379	全体としては目標達成できなかったが、GI認証分については19,484円と高い値を示した。
	八女茶の市場の取引実績額(百万円)	3,112	3,112	1,890	コロナ禍の全国的な需給バランスの低下により八女茶の単価についても下落し未達成となった。
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	高級百貨店での販促事業を予定していたが緊急事態宣言による閉鎖によって実施できなかった。また海外での消費拡大事業ができないことから、東京、福岡を中心とした小規模の参加者を対象として回数を重ねる消費拡大活動を実施した。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	これまで構築したネットワークや公式商品、EC通販サイト、プレゼントツールを活用して実売のための企画運営をメインテーマとして事業を推進する。東京においては世界的な高級レストランとのイベント企画を核として、数社のメニュー化を進め販路拡大事業を展開する。福岡市は、大濠テラスにおいてレストランや企業を招集しプレゼンテーションを実施しメニュー化や商品化による全国展開を図っていく。八女市は、八女茶の理解や支援を浸透させるために飲食店で提供できる施策を実施する。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	取組みを頑張っていることは非常に評価できるが、地元市民に伝わっていないため周知を図って欲しい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地方創生推進交付金 事業効果検証シート
(R2年度事業分)

No.	2	担当課	農業振興課
-----	---	-----	-------

交付対象事業名	八女フルーツのまちづくり推進事業				
総合戦略での位置付け	1. 「ひと」と「しごと」をつなぐ	事業費	計画額(円)	25,000,000	
	②生産性の向上		実績額(円)	20,350,000	
事業概要	八女市では、お茶をはじめ、イチゴ、キウイフルーツ、かんきつ、ぶどう、梨など四季を通じて収穫され、特に「博多あまおう」の生産量は、全体の5分の1を占める主要産地である。平地部から中山間地及び山間地と広域な八女市の特質を活かし、高い栽培技術により高品質な作物の生産がなされている。しかし、生産者の高齢化等により生産量が減少傾向となっている。八女フルーツの付加価値を高め、農業所得の増大と経営の安定を図る。				
活動内容	(1)福岡市内での施策 飲食店タイアップによるスイーツの開発及び販売 八女フルーツについての認知や消費動向の調査【市場調査】 プロモーションイベントへの出店 (2)八女市内施策 市内店舗によるスイーツの開発及び販売 (3)ブランド推進 クラウドファンディング施策 フルーツエール 展開 フルーツ情報を集約するブランドサイトの更新・充実(イベント・品目毎の新規就農者取材・コホ情報等)				
主な成果	令和2年度においては、昨年の施策・効果を踏まえつつ、新型コロナウイルスを考慮した施策を実行した。福岡市内では、昨年度より人気店と八女フルーツの関係性が構築済み、且つ新型コロナウイルスの影響により、テイクアウト需要増のため、八女フルーツ商品の開発・販売に力を入れた。また、八女市内においても「認知が拡大できる店舗」「県外からの集客が見込める店舗」を基準に店舗に協力依頼を行い、施策を実施し、市民の八女フルーツ認知向上に努めた。その結果、福岡市内及び八女市内においても、安定した販売売点数、過去最高の売上、14万件を超えるSNSでの反響でお客様からの共感・評価へつながり、過去から積み上げてきた成果が全てが運動した実績となった。 また、コロナ禍に合わせたイベントに出店、専用ブランドサイトの更新を継続的にを行い、八女フルーツのイメージ向上と情報発信による銘柄高揚を図った。 取組の結果、2018年の市場調査では、福岡県内のフルーツの産地として想起されるのは「朝倉」「糸島」「うきは」に次ぐ4番目の八女市であったが、最終年度に実施した市場調査では、継続的に施策を実施したことにより「八女市」イコール高品質のフルーツの産地という認知が向上した結果となった。 高い栽培技術により生産された高品質・高水準の八女フルーツとしてブランディングすることで、付加価値をもたらし、八女フルーツとしての認知が向上した。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R2年度)	実績値(R2年度)	説明
	キウイフルーツ・かんきつ・ぶどうの合計販売高(百万円)	4,559	4,739	4,461	JA福岡八女の協力を得て、福岡市内の飲食店及び八女市内の飲食店で八女産フルーツの提供を行った。しかし、新型コロナウイルスの影響による農産物等の販売活動が制限された影響がある為、全体的な売上は例年より大きく減少した。
	事業を通じて開発された商品の取引業者数(者)	0	5	16	福岡市内の飲食店及び八女市内の飲食店で八女フルーツ商品の開発販売販売した。
	観光消費額(百万円)	3,103	3,213	2,159	福岡市内でのプロモーションイベントでのPRを行ったが、新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言の発令等により、観光消費額が例年より大きく減少した。
	新規就農者数(人)	10	18	7	新型コロナウイルス流行による影響と、緊急事態宣言を受け、新規就農者向けの対外的なイベントでの情報発信等ができなかった為、新規就農者数は目標達成できなかった。
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	マーケティング等の調査分析により八女産フルーツの認知度は向上しつつあり、飲食店でのタイアップやマルシェでの出店において実際に商品開発する中で関係者及び購入者から品質の高さが評価され、継続するなかで販売数やSNS等の投稿も飛躍的に向上した。しかしながら地元福岡市や八女市での購入機会が少ないことから購入機会を考慮した八女産フルーツの認知度の更なる向上が必要と考える。			

- <事業効果>
 ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
 ③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	⑤予定どおり事業終了 高品質・高水準の八女フルーツとして認知され、八女フルーツのイメージ向上につながり付加価値をもたらした。今後も継続的に飲食店へ八女のフルーツを積極的に使用してもらう為に、物流体制の改善や地場商社の協力を得ることで、「自走化」を目指し、飲食店が販売する「いつも八女のフルーツを利用した美味しい商品」により、八女フルーツの認知度を継続的に向上させるよう努めたい。
-------	--

- <今後の方針>
 ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
 ③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	フルーツサンドなど新たな商品開発も頑張っていたきたい。

- <有識者からの評価>
 ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地方創生推進交付金 事業効果検証シート
(R2年度事業分)

No.	3
-----	---

担当課	観光振興課
-----	-------

交付対象事業名	筑後七国観光推進協議会(県民総活躍社会の実現プロジェクト【福岡県及び関係市町との広域連携事業】)				
総合戦略での位置付け	2.「ひと」と「八女市」をつなぐ	事業費	計画額(円)	358,000	
	②交流の拡大		実績額(円)	358,000	
事業概要	福岡ソフトバンクホークスファームを活用した筑後七国の活性化 事業主体:筑後七国活性化協議会(構成団体:筑後市、柳川市、八女市、みやま市、大川市、大木町、広川町) ホークスベースボールパーク筑後での筑後七国物産展「筑後七国フェスタ」の開催、季刊情報誌等の観光情報発信、スタンプラリー、着地型観光ツアーといったPR等を行うことで、八女市への観光交流へ繋げるもの。				
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年12月25日(金) 筑後七国中学生野球教室の実施 ・令和3年3月19日(金)～21日(日) HAWKSベースボールパーク筑後開業5周年セレモニーが開催され、筑後七国のPR活動を実施 ・令和3年3月19日(金)～5月7日(金) ホークスが監修したパネル及びDVDを展示、公開する巡回パネル展の実施 ・筑後七国観光プロモーション映像製作、筑後七国観光ガイドブックの作成、筑後船小屋駅の情報発信施設の有効活用、旅行情報誌への記事掲載や筑後七国スタンプラリー実施による観光地発信事業の実施、ラジオでの情報発信等 				
主な成果	筑後七国の中学生に対してホークスOB選手による実戦形式の指導を通して、野球に対する気持ちや技術等を学び、子どもたちの成長に繋がった。台湾・中国で知名度があるねんど大介氏と地元書道家タレントである原愛梨氏を起用してプロモーション映像をインターネット配信や博多駅構内、マリンワールド等の施設にて動画を放映し、都市圏や観光客に向けて情報発信を行った。その他にも、HAWKSベースボールパーク筑後での観光PR、KBCアサデス30秒PR出演などを通して、筑後七国及び八女市の認知度向上に努めた。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R2年度)	実績値(R2年度)	説明
	観光入込客数(万人)	210	270	120	新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け観光入込客数は落ち込んだ
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	筑後七国及び八女市の観光地としての認知度を更に向上させ、観光客による筑後船小屋駅の利用を促進させ、筑後七国全体を周遊してもらうことにより、地域経済を活性化させたい。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	「『HAWKSベースボールパーク筑後』を活用した地域活性化事業」を重点事業とし、観光PR事業や各種イベント、着地型ツアー等を開催し、筑後七国の魅力発信を行うとともに筑後七国内の周遊を図る。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	新型コロナウイルス感染症の影響で観光入込客数に大きく影響を受けているが引き続き事業の継続に努めて頂きたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地方創生拠点整備交付金 事業効果検証シート
(R2年度事業分)

No.	4
-----	---

担当課	観光振興課・矢部支所まちづくり推進係
-----	--------------------

交付対象事業名	矢部地区山村滞在施設整備計画				
総合戦略での位置付け	2. 「ひと」と「八女市」をつなぐ	事業費	計画額(円)	-	
	②交流の拡大		実績額(円)	-	
事業概要	矢部地域の活性化を図ることを目的として、山村滞在施設の建設を行い、雇用機会の創出、都市との交流によるにぎわいづくりによって、地域内の経済の活性化につなげ、人口流出、高齢化に歯止めをかける。				
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊客のプライバシーに配慮した高級感溢れる平屋造りの離れ宿7棟と、別棟のレストランを建設。 ・平成28年3月にオープンした観光物産交流施設「柚のさと」との連携を図り、矢部地区に訪れる日帰り客及び宿泊客の幅広いニーズに対応可能となる体制作りを構築した。 				
主な成果	滞在施設の運営を行う民間業者が地元雇用を行ったことにより、安定的な雇用への期待が持てる。また、観光物産交流施設及びその他の施設運営についても同一民間業者が運営することとなり、矢部地域の施設を一体的に運営することにより、今後の集客力に期待が持てる。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R2年度)	実績値(R2年度)	説明
	矢部地域への観光入込客数(人)	63,400	79,500	78,681	コロナ対策による移動の制限や、施設の休業により減となった
	滞在施設の収入(千円)	0	41,400	65,345	離れ宿であるためコロナ禍での宿として利用が増える結果となった
	滞在施設への宿泊客数(人)	0	3,100	4,191	離れ宿であるためコロナ禍での宿として利用が増える結果となった
取組の検証	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった			
	課題・改善点	さらなる地域への経済効果の波及			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	知名度を上げるための広告、宣伝に力を入れ、固定客の増加を図る。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	地域内の経済の活性化につなげ人口減少に歯止めをかけるために、関連施設と連携を図りながら地域の活性化に努めていただきたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地方創生拠点整備交付金 事業効果検証シート
(R2年度事業分)

No.	5
-----	---

担当課	観光振興課・立花支所まちづくり推進係
-----	--------------------

交付対象事業名	道の駅たちばな食のスペース(仮称)整備計画				
総合戦略での位置付け	1. 「ひと」と「しごと」をつなぐ	事業費	計画額(円)	280,452,000	
	②生産性の向上		実績額(円)	219,769,000	
事業概要	観光振興と農林業の振興および地場産品の消費拡大を図るとともに、地域のにぎわいの拠点として地域経済の活性化と雇用機会の創出を図り、人口流出に歯止めをかけることを目的とする。				
活動内容	農産加工施設や研修施設、大人数で食事・休憩が出来る屋内型の休憩施設等が一体となった食のスペース(仮称)を整備する。				
主な成果	上記整備を行ったことにより、食のスペース(仮称)を「お食事処招竹梅」としてオープンすることができた。招竹梅では、5つのテナントが入り、地元産の食材を使った料理の提供を可能としたほか、加工場の活用により商品の開発も行っている。コロナ禍で厳しい状況でもある程度の成果は出しており、それらのさらなる活用により今後の集客力に期待が持てる。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R2年度)	実績値(R2年度)	説明
	道の駅たちばな販売売上高(直売所、食のスペース)(単位:千円)	528,000	10,000	10,244	コロナ禍により直売所の売上は減っているが、食のスペース新設分は伸びている。
	加工品開発品目数(品)	0	1	22	前倒して開発ができています。
	開発加工品売上額(千円)	0	500	1,096	上記、開発した分の売上がでている。
取組の検証	事業効果	②本事業は地方創生に相当程度効果があった			
	課題・改善点	さらなる地域への経済効果の波及			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	直売所、加工所、飲食店の連携による相互作用の向上に向けた取り組みを進め、固定客の増加を図る。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	加工所にて開発する商品については、関係機関と連携を図りながらPRに努めていただきたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地方創生拠点整備交付金 事業効果検証シート
(R2年度事業分)

No.	6
-----	---

担当課	観光振興課・黒木支所まちづくり推進係
-----	--------------------

交付対象事業名	笠原地区木育及びキャンプ施設整備計画				
総合戦略での位置付け	2.「ひと」と「八女市」をつなぐ	事業費	計画額(円)	384,135,000	
	①交流人口の拡大		実績額(円)	357,494,000	
事業概要	「木育」の機能を持つキャンプ場を整備し、地域住民と連携し地域全体で観光の振興と木育の推進を図り、キャンプ愛好家はもとより子育て世代に自然体験の場を提供し、交流人口の増による地域のにぎわいを創出する。また、「薪」に着目し、地域内に豊富にある森林資源に付加価値をつけ、施設利用者に地域農産物とあわせて販売することで地場産品の消費拡大を図り経済の活性化を促し、さらには、特色ある施設を運営することで地域の魅力を発信し、施設・森林管理や木育スタッフなど雇用機会の創出も図るなど関係人口の創出・拡大、将来的には移住、定住につながる事業展開を行うことにより、八女ファンを増やしていき都市部から人を呼び込み人口の増加を目指す。				
活動内容	山間地という森林環境の中に、木のぬくもりに直接触れることができる木のおもちゃを備える木育施設兼母屋、八女産材を使用した宿泊施設5棟、オートキャンプサイト18区画、炊事場・シャワー・トイレのサンタリー棟、母屋の中には地域農産物や薪を販売する物販スペース、八女茶発祥の地としての地の利を活かした八女茶カフェを整備した。				
主な成果	地域住民と来訪者の交流拠点とすることで交流人口の増加、経済の活性化、雇用の創出及び移住・定住を推進し、将来にわたって自立性を持ったコミュニティの運営ができる地域となることを目指す。 周辺の森林を含め自然体験の場を提供し、親子ふれあいの場、森林環境教育の場としても利活用していく。また、物販、八女茶カフェを地場産品の販売拠点として利活用していく。あわせて、子どもから高齢者まで多世代間交流の拠点としての役割も期待できる。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R2年度)	実績値(R2年度)	説明
	施設入込客数(人)	0	0	0	令和3年3月末竣工のため実績なし
	施設の利用料収入額(千円)	0	0	0	令和3年3月末竣工のため実績なし
	市の延べ宿泊者数(千人)	109	120	83	コロナ対策による移動の制限や、施設の休業により減となった
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	施設整備まで度重なる地域との話し合いを行い、地元雇用も行っているが、さらなる地域への経済効果の波及のため、地場産品の販売や木育における人的支援および原材料の供給についての体制整備を推進する必要がある。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	知名度を上げるための広告、宣伝に力を入れ、客の増加を図る。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	木育の推進や森林環境に関する教室などの推進を努めていただきたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地方創生拠点整備交付金 事業効果検証シート
(R2年度事業分)

No.	7
-----	---

担当課	定住対策課
-----	-------

交付対象事業名	福岡の森 八女の木 プロジェクト				
総合戦略での位置付け	1. 「ひと」と「しごと」をつなぐ	事業費	計画額(円)	-	
	①就業の場の拡大		実績額(円)	-	
事業概要	森の再生を行い、木材の安定調達・供給体制の確立と需要拡大を図りながら木材製品の利活用を支援する「地域商社」の活動拠点として、八女福島地区の伝統的建造物群保存地区の中心である旧八女郡役所の1区画を整備するもの。				
活動内容	拠点施設は、地域商社の事務所、及び建築家やクリエイターのアイデアと地元伝統技術による融合によって生み出された付加価値の高い木質商品のショールームや商談の場として活用し、八女産材の普及・拡大に向けて地域内外の人々が交流できる場とする。また、八女産材を活用した内装建築、及び家具等の製品の営業企画及び商品開発を行う。				
主な成果	地域商社「(株)八女流」など福岡の森八女の木プロジェクト関係者の活動拠点兼ショールームとして活用している。令和1年度に開発したブランド材も展示しており、建築関係者を招いたりオンラインを使った商談やプロモーションを行った。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R2年度)	実績値(R2年度)	説明
	販路拡大企業累計数(社)	0	1	4	福岡都市圏のビルオーナー、不動産関連業者と取引を行った。
	新規林業経営体の数(件)	0	4	0	林業家の育成に向けて、自伐型林業家との調整を進めている。
	人口流入数	0	5	1	里山賃貸住宅に市外から1名の入居者があった。
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	木材の安定供給と林業の担い手不足解消のためにも、林業従事者の発掘や雇用が急務である。八女林業ファンを増やす活動を拠点施設を中心に実施する必要がある。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	引き続き八女産材のショールーム及び福岡の森八女の木プロジェクトの活動拠点として活用し、市外ハウスメーカーや都心部の不動産オーナーとの取引拡大を進める。地域人材育成の観点から、地域や学生とのワークショップなど拠点施設を活用したイベントのほか、地域通貨やふるさと納税を活用したプロモーションを行い、八女林業ファンの拡大に努める。木材の安定供給と林業の担い手不足解消のため、林業従事者の発掘を行う。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	八女の森とまちによる循環型のまちづくり事業(ソフト事業)との連携で、八女木材の既存の木材業が盛んになってきているので事業効果は更に高くても良い。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地方創生推進交付金 事業効果検証シート
(R2年度事業分)

No.	8
-----	---

担当課	定住対策課
-----	-------

交付対象事業名	八女の森とまちによる循環型のまちづくり事業				
総合戦略での位置付け	1. 「ひと」と「しごと」をつなぐ	事業費	計画額(円)	19,175,000	
	①就業の場の拡大		実績額(円)	19,030,000	
事業概要	令和2年度においては主力商品である内装材及び家具等の販路拡大に一層注力し、体系的・組織的な営業体制構築により販売高を一層伸長させる。また、八女市の観光施策や観光協会等と連携して里山体験のバスツアー定期開催を行うとともに、地域の学生との交流・課題研究を通じ、地域人材育成と八女林業のファンづくりを行う。また、伝統的建造物群保存地区に指定されている八女福島および八女市黒木の関係団体(八女福島町並み保存会、八女福島デザイン研究会、八女町家再生応援団等)と連携し、建築物の保存・復旧・修理事業における八女産材の利用方針を策定するとともに、技術的な利活用方策の研究を進める。				
活動内容	八女産材の販路確保、売上高拡大、商品開発等 八女産材活用まちづくりコーディネート(福岡市等都市部不動産関連事業者と域内事業者との連携強化、八女バスツアー開催、地域の学生等との交流・課題研究による地域人材育成) 里山賃貸住宅関連事業(里山賃貸住宅および八女・上陽プロモーション、空家情報の収集、利活用企画)				
主な成果	<p>(1)販路拡大業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市、久留米市など近郊都市に向けて内装材を販路開拓する方向性。 ・R2年度の新規販路としては9社開拓。商品開発についても商品化に向けた試作づくりをしている。 <p>(2)八女産材活用まちづくりコーディネート業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市都市部不動産関係者(8社)と域内事業者と連携強化ができた ・地域学生等との交流・課題研究による人材育成として、九州産業大学建築都市工学部との講義を行ったほか、西南学院大学商学科の課題研究に協力した。 ・一般人を対象に八女バスツアーを開催し、八女林業や木材産業の姿を周知する機会となった。 <p>(3)里山賃貸住宅を活用した八女産材普及プロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トークイベント「八女で考える里山資本」を実施したほか、八女産材ショールームとして8団体の視察受け入れを行っており、八女杉採用や検討に繋がっている。 				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R2年度)	実績値(R2年度)	説明
	八女産材製品の売上高(万円)	220	1,000	1,875	キャンプ場等の公共施設による受注があり、増加となった。
	八女産木材原木使用量(m ³)	10	200	520	キャンプ場等の公共施設による受注があり、増加となった。
	販路拡大企業数(社)	2	4	4	9社新規開拓を行い、前年度比4社増加した。
	里山賃貸住宅の入居者(戸)	0	0	1	市外からの入居者1戸増
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	価格の低迷や後継者不足等が一番の課題であると仮定していたが、大きな市場に出せる量の十分な人工乾燥材が不足しているという課題に気づき、今後の林業施策へのヒントとなった。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	福岡の森八女の木プロジェクトを中心に、八女産材の販路開拓を続けるとともに、関係各所と八女材の課題を共有して政策立案に向けた協議を行う。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	福岡の森八女の木プロジェクト(ハード事業)との連携や、八女産材製品の売上高の目標を達成しているので事業効果は更に高くても良い。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

地方創生推進交付金 事業効果検証シート
(R2年度事業分)

No.	9
-----	---

担当課	定住対策課
-----	-------

交付対象事業名	持続可能なまちづくりのための地域活力向上にぎわい創生プロジェクト				
総合戦略での位置付け	2.「ひと」と「八女市」をつなぐ	事業費	計画額(円)	29,999,000	
	②移住・定住の推進		実績額(円)	29,788,770	
事業概要	地域内外の人のつながりを生み出す電子地域通貨プラットフォームの仕組みを通して、八女市への新しいひとの流れをつくり、継続的に多様な形で関わる関係人口を創出・拡大させる。また、人と人とのつながりを深めた地域社会資本を元手に地域経済資本や地域環境資本を増やしていき、だれもが多様な才能を発揮できる持続可能な地域社会構造への移行を目指す。				
活動内容	①コミュニティ通貨システム開発・導入(アプリ名「まちのコイン」、通貨単位「ロマン」) ②コミュニティ通貨流通促進支援(通貨の配布・発行・管理アドバイス、分析レポート作成、イベント運営、加盟団体募集促進、通貨プロモーション、運営団体育成) ③関係人口創出拠点施設開発(通称「つながるバス停」) (拠点のコンセプト立案、企画費、立ち上げ運営支援、コミュニケーションツール製作等) ④サテライトオフィスを活用した起業支援(コミュニティマネージャー招聘、車両リース、起業家育成支援イベント、アイデアソンイベント)				
主な成果	当初、2020年7月に事業開始を想定して本KPIを設定したが、新型コロナウイルスの影響で事業開始時期が想定より3ヶ月遅れて10月となり、チケット利用回数の計測期間が短くなったためKPIの目標値に到達しない部分もあったが、地域外ユーザー数は予定を上回る成果となり確実な関係人口の構築につながった。				
重要業績評価指標(KPI)	指標(単位)	基準値	目標値(R2年度)	実績値(R2年度)	説明
	アプリ内チケット利用回数(回)	0	5,000	3,880	新型コロナウイルス感染症の影響で、事業開始時期の遅れが原因
	地域外ユーザーのチケット利用回数(回)	0	100	625	スタートアップ時のプロモーションにより地域外ユーザーが想定よりも多かった。
	コミュニティ通貨を活用したプロジェクト実施数(回)	0	10	10	ユーザーやスポット拡大のためプロモーションを中心としたプロジェクトを実施することができた。
	コミュニティ通貨利用者の起業数(人)	0	1	0	新型コロナウイルス感染症の影響で、起業者が少なかった
取組の検証	事業効果	③本事業は地方創生に効果があった			
	課題・改善点	新型コロナウイルス感染症の影響で、事業開始時期の遅れや、利用者の回遊性を高めることができなかったため、関係人口創出拠点やサテライトオフィスを活用しながら、オンラインでもコミュニティ通貨を使ったつながりづくりを行っていく取組が必要。			

<事業効果>

- ①本事業は地方創生に非常に効果的であった ②本事業は地方創生に相当程度効果があった
③本事業は地方創生に効果があった ④本事業は地方創生に対して効果がなかった

今後の方針	③事業の継続
	起業(小商い)家育成支援及び、多様な社会参加を促す取り組みとして、高齢者や学生などの非従業者と起業家によるアイデアソンイベントをサテライトオフィス等を活用して実施する。さらに、市内の学校や近隣の大学等と連携し、学生が主体となって通貨利用イベントを企画・運営を行えるよう取り組む。また、地域の伝統工芸産業との連携もはじめ、伝統工芸の体験プログラムを地域住民や市外の人との接点として作る。ふるさと納税の返礼品の一部や寄付の使用用途として当事業を指定するための検証を進める。

<今後の方針>

- ①追加等さらに発展させる ②事業内容の見直し(改善)
③事業の継続 ④事業の中止 ⑤予定どおり事業終了

有識者からの評価	①総合戦略のKPI達成に有効であった
意見	関係人口を増やすため、まちのコインを使える場所(スポット)の増加に努めていただきたい。

<有識者からの評価>

- ①総合戦略のKPI達成に有効であった ②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない